



当社の DX 推進の取り組みについて

DX 推進担当取締役 古田 耕児

=====

2018 年 9 月に経済産業省より公開された「DX レポート」、2020 年 12 月の「DX レポート 2」にある DX 推進の重要さを認識して、当社においても「IT 技術を駆使して、経営判断・行動判断をおこない、企業の変革を目指す」ことを推進することとなりました。自らの変革に加え、お客様の DX 推進にも活かすことができる製品・ソリューションの提供をしていきます。

2020 年度に実施したことも含め、当面の計画を 2024 年度までの目標達成として推進してまいります。

【1】DX 推進骨子

次の 3 点を骨子として推進をしていきます。

- 骨子 1. 営業面、人事面、業務処理面において長年蓄積したデータを活かして、行動分析・効果分析をおこない、行動・判断に反映させる。
- 骨子 2. 情報セキュリティを維持した IT 基盤の充実と業務環境の継続的な提供をおこなう。
- 骨子 3. デジタルマーケティングはじめ IT 技術を用いた業務遂行を試していくことで、ワーキングスタイルを変革する。

【2】DX 推進全体に基づいた主な施策

- 1) 人材育成
 - ・情報セキュリティ関連の人材育成
 - ・経営層に対する DX 推進の教育を優先して実施する
- 2) DX 推進の社内啓蒙
 - ・2021 年 4 月社内事業説明会から実施中
- 3) PDCA の運用実施
 - ・3 種の ISO 資格の継続で身に着いたノウハウと同様に実施中

【3】3点の骨子に紐づいた主な施策

1) 営業面、人事面、業務処理面においてデータ分析による行動・判断への反映

- ・過去に遡った全社員の人事目標管理シートのリストを作成し、人材成長に活かしていくことを実施中。
- ・営業進捗の進捗分析から早目の対策につなげることを実施中。
- ・他蓄積しているデータ、これから生成されるデータについての分析・考察を積極的におこなうことを計画中。

2) 情報セキュリティを維持したIT基盤の充実と業務遂行環境の継続的な提供

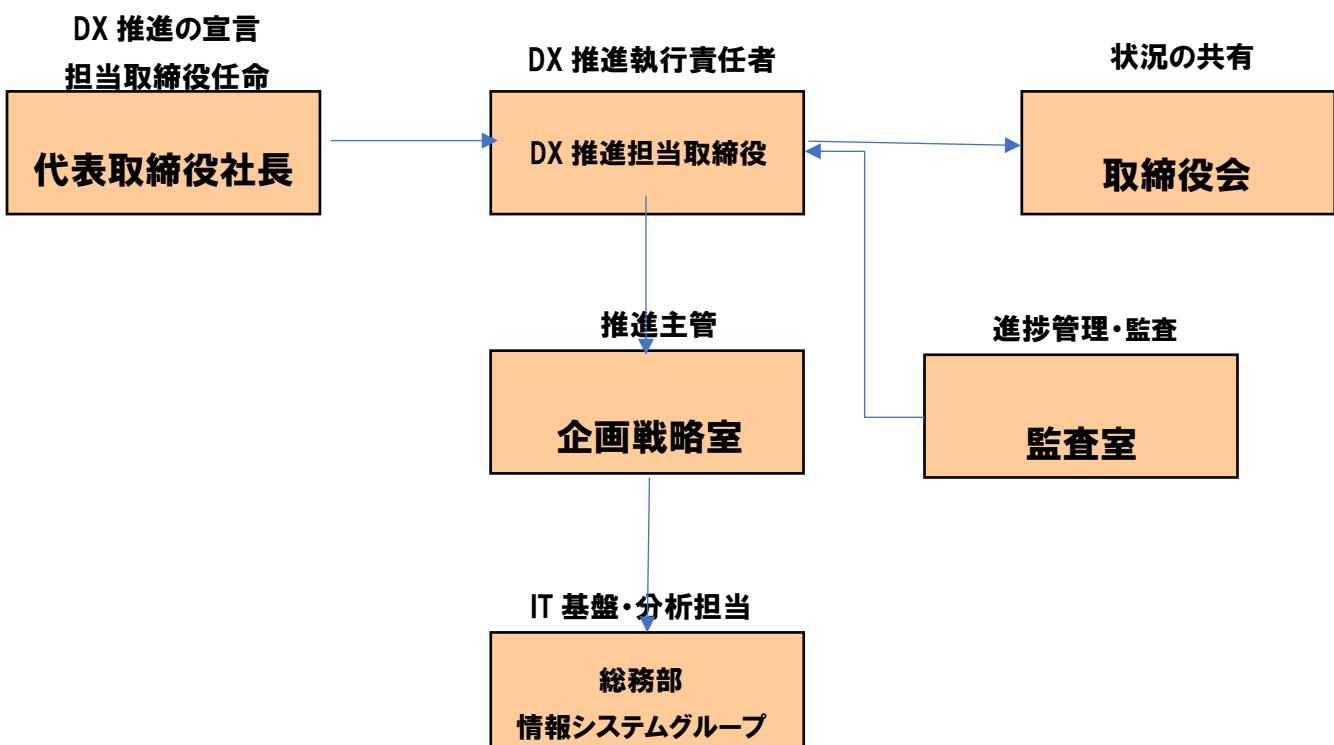
- ・リモート環境における業務遂行の提供。統合ストレージを含めて機能拡大を実施中。
- ・2022年度に予定しているPC環境の刷新と共に、クラウドサービスの割合の増加。
- ・数年をかけて、営業処理フローを見直し、カスタマイズが多い現在の販売管理システムから汎用製品の利用に移行することを検討。
- ・ISMSの中で継続的なサイバーセキュリティ対策と運用を実施中。
- ・先端の情報セキュリティ製品・ソリューションを提供中。

3) デジタルマーケティングなどの利用によるワーキングスタイルの変革

- ・MAサービスを用いたデジタルマーケティングを開始。効果測定と拡大を図る。
- ・マーケティング専門部門の設立も含めたマーケティング活動を充実させる。
- ・ナリッジデータベースを共通のものにする。

【4】DX推進体制

下図に示す体制でDX推進を実施します。今後の状況や解決課題の追加に伴い、役割の追加が考えられます。



【5】DX 推進の実施

前述までの方針・施策をおこない、定期的な PDCA を遂行することによって、DX 推進を実施してまいります。

2020 年度から実施した IT 基盤の整備（第 1 段階）、2021 年度前半に実施したデータ分析方法の試行などの DX 推進準備（第 2 段階）、実運用を 2021 年度後半から 2024 年度末（第 3 段階）とするスケジュールです。

2021 年 10 月 18 日